

縄文時代中・後期のヘラ状貝製品について

西野雅人

1. はじめに

「ヘラ状貝製品」とは、『骨角器の研究 縄文篇Ⅰ』『同Ⅱ』（金子・忍澤1986）において、「器体の一部に磨耗の痕跡を有する」貝製品に与えられた名称である。同書は、この貝製品について全国的な資料集行を行い、「資料数は現時点では微々たるものである」としながらも、「確実な器種としての存在」を想定し、今後資料が増加していく可能性が十分あるとしている。ちょうど、同書が刊行されたころ、金子・忍澤が予想したとおり、千葉市有吉北貝塚¹⁾の中期中葉貝層の調査において、腹縁の磨耗したアリソガイが多数出土した。貝製品の種類と特徴を発掘参加者に知らせて回収を図った担当者の努力の成果である。

筆者は、当遺跡の整理作業に携わった。貝サンプルのなかから、また、貝製品の可能性を考慮して取り上げられたアリソガイや、大形ハマグリ²⁾のなかから同種の製品を探し出す作業にあたった。その結果として、報告書ではアリソガイ製品24点、ハマグリ製品11点を「磨貝（すりがい）」として掲載した。用途は不明ながら、使用の結果として腹縁が磨耗した貝殻製の道具、すなわち貝器であると判断した（小笠原1998a）。実は、磨耗の痕跡は明確でないものの、線状痕（擦痕）が認められる資料は200点以上みつかった。しかしながら、線状痕は微妙なものが多いため、人為的に付いたものであるかどうかの判断は難しく、報告書には人為的に磨耗したと判断できたもののみを掲載している。

ところが最近、千葉市六通貝塚³⁾の整理作業において、貝製品を抽出する目的で多数の大形ハマグリを観察した結果、有吉北貝塚の報告書で非掲載とした資料の微妙な磨耗や線状痕も、人為的なものと確信するに至った。本稿の第一の目的は、非掲載とした資料を報告し、掲載資料に加えることにある。第二の目的は、この貝製品の特徴を紹介することである。貝製品は見落としやすいものであり、今後回収される製品が増えることを期待したい。そのために、六通貝塚から出土した中期後葉から後期初頭の製品についても、予備的

な紹介を行いたい。

2. ヘラ状貝製品について

(1) 報告例と概要

『骨角器の研究』では、ヘラ状貝製品を貝種と加工・磨耗の位置から7種に分類しているが、これをまとめると以下の2大別、3種類にまとめることができそうである³⁾。

①非加工

①a. 主に腹縁が磨耗

- i ハマグリ, ii アリソガイ, iii ムラサキガイ,
- vi フジナミガイ

①b. 主に殻頂部が磨耗

- vii ハマグリ・カリガネエガイ（「スレ貝殻」）

②加工

- i チョウセンハマグリ

今回取り上げるのは①aとした貝殻を加工することなく、腹縁が磨耗したものである。金子・忍澤が今後の増加を見込んだのは、①bを含めた非加工の製品である。①bは、宮城県里浜貝塚の晩期貝層から多数出土し、詳細な研究が行われている（東北歴史資料館1985）。線状痕の付着や磨耗は殻表の様々な位置に及び、とくに殻頂部は穴が開くほどに使われているのが特徴である。ただし、いまのところ仙台湾以外では知られていないようである。②はチョウセンハマグリの腹縁部分を舌状に加工し、周囲が研磨されたものである。これは関東から東海にかけて後晩期に使用されたいが、類例が少ない。

(2) 名称

すでに「ヘラ状貝製品」、「スレ貝殻」、「磨貝」という名称が使われていることを紹介した。「磨貝」という名称は、アリソガイ製品について、研磨という特定の機能をもった道具であろうと考えて筆者が使ったものである。単に磨耗したものというよりも、道具であることを示す名称が相応しいと考えた。しかし、今では性急であったと考えている。その後、ハマグリ製の、

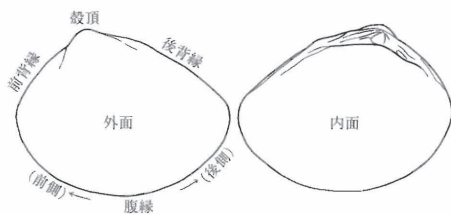
研磨に使用したとは考えにくいもう1種類の製品が多数発見されたからである。これらを含めた名称としては「磨貝」は相応しくない。今のところ両者を別の名称で呼ぶのも無理がある。そこで、今回は「ヘラ状貝製品」という名称に従うことにした⁴⁾。

なお、もう1種類の製品とは、図版1-2のように、特徴的なものは腹縁の一部が平らに磨耗するものである。アリソガイ製品は、主に腹縁の後端や前端が曲線的に磨耗していくものであり、使用方法は明らかに異なる。これを加えると、非加工のヘラ状貝製品は以下の3つに分類することができる。

A型:主に腹縁の前・後端が曲線的に磨耗したもの(アリソガイ型)

B型:腹縁の一部が平坦に磨耗したもの(ハマグリ型)

C型:主に外面の殻頂部が磨耗したもの



二枚貝の部位名称

3. 有吉北貝塚(中期中葉)の資料

ヘラ状貝製品は、以下の合計263点出土している。これは今回追加した資料を含んだ数である。ちなみに、貝器としてはこのほかに貝刃503点(ハマグリ製454, カガミガイ製49)がある⁵⁾。

アリソガイ製 83点

ハマグリ製 161点

その他の貝製 19点

(フジナミガイ16, オオトリガイ2, ミルクイ1)

第1~3表に全点を掲載する。既に報告書に掲載したものは、挿図番号を備考欄に示す。なお、アリソガイの表にある125点のうち、42点は使用痕の認められないもの(多くは破片)であり、参考資料である。

(1) アリソガイ製(第1表)

アリソガイ *Coelomactra antiquata* は、ハマグリに似たバカガイ科の二枚貝である。チョウセンハマグリ、ダンベイキサゴ、コタマガイ、ベンケイガイなどとともに外洋に面した沿岸砂底に生息する。当遺跡の周辺には外洋の海岸はなく、アリソガイ以外の外洋種はわずかにダンベイキサゴとチョウセンハマグリがみられたに過ぎない。素材として、比較的残りがよく、大き

な貝殻を選んでいる。腹縁の観察が可能な個体に限ると、大半が使用されている。先述の分類ではすべてA型であり、「アリソガイ型」と言い換えることができる。貝殻には、次のような特徴が認められる(図版1-1)。

腹縁端部~外面 腹縁の前端または後端の尖った部分を中心に、磨耗による変形と強い線状痕がみられる。線状痕は肉眼でははっきりと確認できる。劣化等により観察しにくいものを除くと、磨耗した部分には必ず線状痕が伴うので、比較的粗い傷のつきやすい作業に使われたものと考えられる。腹縁端部と外面の使用痕は連続しているものの、多くは明確な稜、端部に摩耗面をもつ。おそらく、対象物に当たる角度、あるいは貝殻を持つ角度を変えながら使ったのであろう。

内面 腹縁端部~外面のものとは違って、肉眼でははっきりと捉えられる線状痕は付かない。横から強い影が付くようにライトを当てると、浅く細い線状痕が確認できる。実体顕微鏡下ではよく観察できる。しかし、表面が磨耗し、平滑化あるいは光沢をもった部分であっても、線状痕が確認できない部分もある。線状痕あるいは平滑化・磨耗のみられる範囲は殻外面よりずっと広く、腹縁近くの内面全体に横方向に広がっている。筆者は「手ずれ」の痕跡ではないかとみている。

なお、慎重を期して報告書の段階では多くの資料を非掲載としたが、磨耗や線状痕の位置や状態はきわめて斉一性が高く、今回は使用痕と判断した。

(2) ハマグリ製

ハマグリは当貝塚の主要構成種である。しかし、ほとんどの個体が2歳(殻長約4.5cm)になるまでに採取されてしまう、というきわめて高い採取圧の影響(西野1999)によって、貝刃やヘラ状貝製品として利用するような中形・大形個体となると、かなり少ない(小笠原1998)。そうはいつても、海岸に打ち上げられた貝殻を採集することも可能であったはずであり、アリソガイに比べると、格段に素材が入手しやすかったことは疑いない。整理作業を始めたころに「まだハマグリ製のヘラ状貝製品がみつかっていなかった」とも疑問に思っていたのは、そのところである。アリソガイとハマグリは形状が似ているのに、なぜアリソガイにこだわり、入手しやすいハマグリを使わなかったのか、疑問である。

ところがある日、貝サンプルのなかから明らかに腹縁が磨耗し、外面の殻頂部付近にも線状痕が付いたハマグリ(図版1-2)を発見し、その後同様の製品は増え続けて、最終的には161点に上った。しかも、アリ

ソガイ製品とは明らかに特徴が異なっていて、前述の疑問は解決されなかったのである。特徴的なものでは、腹縁の端部が平らに磨耗し、腹縁に直交する線状痕が付いている。これがB型としたものである。磨耗が明らかなものは少なく、磨耗部位は腹縁の中心から後側に限られる。線状痕の付いた範囲はずっと広い傾向がある。腹縁の全体に付くものが多く、一部は背縁にも及んでいた。微妙な線状痕のみのものから、磨耗の明らかなものまで連続的に存在している。161点中、157点にこのB型の特徴が認められたので、「ハマグリ型」と言い換えることができる。

なお、素材とした貝種には4点チョウセンハマグリが含まれている。内湾産ハマグリ漁の「本場」に、外洋産のチョウセンハマグリが持ち込まれたことは興味深い。アリソガイとともに持ち込まれたことも考えられる。海岸で水摩を受けている第2表55を除く、35・96・146は、大きさや殻の形状、強いライトで透かしてみたときの成長脈の形状が酷似しており、一緒に採取され、運ばれた可能性がある。

一方、アリソガイ製品と同様の使用痕を認めるもの(A型)も4例(第2表027,046,049,130)存在する。内面の手ずれの痕跡は3例にみられる。図版1-3(027)は殻の膨らみが強く、大形で、殻のチョーク化が進んでいるため、アリソガイに似た印象がある。海岸で水摩を受けたハマグリがアリソガイに近い質感であることを知っていたのであろうか。あるいは貝種を間違えた疑いもある。C型とした殻頂部の線状痕は14例にみられる。しかし、すべてB型の特徴を併せもっており⁶⁾、また、先述した里浜貝塚出土資料のような殻頂部の積極的な使用はみられない。

ところで、報告の段階で慎重を期して非掲載とした微妙な線状痕を使用痕と判断した理由は、六通貝塚で貝製品を抽出した際に観察を行った整理箱10箱以上の大形ハマグリの中に、B型特有の線状痕がほとんど認められなかったことにある。唯一発見されたのは図版2-6である。微妙な線状痕としたものも含めて、自然に、あるいは偶然に付いたものではなく、使用痕とみてよいであろう。

(3) その他の貝種

フジナミガイ製13点、オオトリガイ製1点、ミルクイガイ製1点がある。わずかな数であり、それほど重要な位置を占めていたとは考えにくい。が、どのような貝殻を選択したのかを知るにはよい資料であろう。磨耗と線状痕の状態をみると、すべてA型で、アリソ

ガイ製品と同様に使われたらしい。アリソガイとこの3種は殻の質感が似ており、大きな個体が使われていること、出土頻度がきわめて稀であり、道具用に入手された可能性が高いことなど、共通点が多い。貝殻の質や形状を基準として素材が選択されたのであろう。ハマグリの貝殻の外層は硬質であり、これがA型の用途に適していなかったのであろうか。

(4) アリソガイ型とハマグリ型

当遺跡から出土したヘラ状貝製品にはいくつかの器種、素材のバラエティがみられるが、安定して使われたものは2種類に限られる。A型=アリソガイ製、B型=ハマグリ製である。わずかに例外もみられるが、用途によって素材を区別していたことは明らかである。

A型は、①道具として使用するために、外洋域から新鮮なアリソガイの貝殻を入手していたこと、②内面に手を当てて、表面や腹縁を何かに擦り付けるような形で使われたこと、の2点を想定できる。具体的には、殻の内面に人差し指から小指を当て、外面や腹縁の外側を強く擦り付けるように左右に動かす、という動作が想定できる(図版2左下)。特定の用途にアリソガイ貝の材質や大きさが適していて、継続的な需要をもっていたと考えられる。

B型は、①比較的大きな個体を選び、②ヘラのような道具として使われたのではないかと考えている。用途を特定するのは難しいが、例えば石皿の上で潰された食品を集める、あるいは掻きとるといったことなど、いくつかの案を想像している段階である。具体的には、貝の内面に親指を掛け、外面に他の4本の指を掛けて縦に動かす使い方が一般的であったようである(図版2右下)。先述した外面側の刃こぼれからみると、手前に引くことが多かったようである。ただし、微妙な線状痕は腹縁後端の尖った部分や、逆に背縁の平坦な部分にも付いているので、対象物の形状に合わせて持ち替えたりしたのであろう。あるいは、用途もかなり広いのかもしれない。

4. 菅田高田貝塚の表採資料

有吉北貝塚の資料から、ヘラ状貝製品は少なくとも中期中葉に安定して使われたことがわかった。すると、空間的・時間的な広がりを知りたいところである。そんなとき筆者のもとに千葉市菅田高田貝塚で表面採集したというハマグリが持ち込まれた。一見して使用による変形と内外面の線状痕が明らかであった(図版1-4)⁷⁾。興味深いことに、素材はハマグリであるが、

磨耗と線状痕はA型すなわちアリソガイ型の典型的な特徴を示していた。純貝層特有のカルシウム(?)が付着していて、その下に線状痕が隠れている。このような資料は、磨耗や線状痕が最近のものである可能性を否定するものである。表採資料のため、詳しい所属時期は不明であるが、採取地点の貝層の時期から後期前半堀之内式期に使用された蓋然性が高い。

当資料の存在から、A型のヘラ状貝製品が後期に連続し、しかも貝種が入れ替わる可能性を知ることができた。なお、この資料はこれまで筆者が譲り受け保管してきたが、今後は当センターで調査し、仮保管している「県内主要貝塚調査 誉田高田貝塚」(出口1991)の貝製品に表採資料として加えておきたい。

5. 六通貝塚(中期後葉～後期初頭)の資料

誉田高田貝塚で表採された資料の存在によって、後期以降の貝層からもヘラ状貝製品が出土する可能性が高まった。平成7年に六通貝塚の調査を担当した高橋さんが、そのことをご存知で、貝層のなかから早速同様の製品を発見された。

当遺跡から出土したのはすべてハマグリ製品であるが、使用の状態はA型(アリソガイ型)とB型(ハマグリ型)がみられる(第5表)。A型6点、B型1点である。当貝塚の中期後葉から晩期初頭の貝層も小形のハマグリ主体であるが、中～大形のハマグリも普通にみられる。ヘラ状貝製品に使用する大きさの個体も入手しやすかったものと考えられる。

製品が出土した位置の土器を確認したところ、いずれも中期後葉加曾利EⅣ式から後期初頭称名寺式がまとまっていた。整理作業で製品抽出のために行った数千点の中～大形貝は、後期中葉加曾利B2式から後葉の安行式の貝層に由来するものが大半であったと考えられる。したがって、ヘラ状貝製品の利用は後期中葉以降までは続いていなかったのかもしれない。

(1) A型(アリソガイ型)

腹縁の端部に磨耗による変形がみられる。1点のみは前側(6)、他の5点は後側が磨耗している。図版2-5のように変形部分の殻外面には著しい線状痕がみられ、内面では腹縁に近い部分全体の広い範囲に弱い線状痕がみられる。内面のものは、やはり手ずれの痕跡とみられる。これらの特徴は、有吉北貝塚のアリソガイ製品と共通している。おそらく同様に使われており、素材となった貝種がアリソガイからハマグリに入れ替わったものとする。アリソガイ製品と違って

るのは、ハマグリ製品では腹縁前端があまり使われていないことである。

(2) B型(ハマグリ型)

腹縁端部がきわめて平端に磨耗し、腹縁に直交する線状痕が付く。有吉北貝塚のハマグリ製磨貝と共通するが、発見されたのは1点のみである(7=図版2-6)。

両タイプとも、有吉北貝塚の製品群と特徴が酷似しているため、同様の具体的な用途をもった道具が、少なくとも中期から後期を通じて利用された可能性が高い。ハマグリ型の1点に比べて、アリソガイ型の6点がみな大きい。また、A型のうち3点ないし4点は殻の全面が海岸で水磨を受けている。いずれも殻の表面に独特の汚れと劣化が認められるが、内面の腹縁近くは手ずれによって平滑化し、白くきれいな面が露出している(図版2-5。線状痕の範囲がきれいになっている)。海岸で劣化したもの入手し、使用されたものとみられる。適度にチョーク化したハマグリは質感がアリソガイに近い。大形ハマグリを入手しやすい状況下で、わざわざ死貝を拾って使ったのは、やや劣化した大形のハマグリがアリソガイに似ているからかもしれない。

有吉北貝塚の中期中葉の資料と異なるのは、何よりも検出例が少ないことである。抽出の際に観察したハマグリは大量であり、中期後葉から後期初頭の使用頻度はそれほど多くなかったであろう。

6. ヘラ状貝製品の回収方法

貝刃は、その存在が指摘された途端、全国各地で、縄文時代各期の資料が発見されるようになった。ヘラ状貝製品の場合は、貝刃ほどの状況は期待できない。時期的、地域的に限られた範囲で使われた可能性が高いこともあるが、問題は貝刃よりも回収が難しいことである。

変形の著しいアリソガイ製品の一部は目に付くとしても、そのほかは存在を意識して発掘・整理が行われない限りほとんど見つからないであろう。現在のところ、千葉県内の中期中葉の貝塚では最初から意識しておく必要を感じるが、ほかの地域、時期では1点でも見つけたら回収の方策を検討するというのが現実的であろう。

回収の方策 殻の変形が少ない製品については、発掘中の検出はほとんど期待できない。可能性のある種・サイズの貝殻を保管しておいて、整理室で観察する必

要がある。具体的には、できれば夜間周囲の電灯を消し、横から強い影が付くように白熱電球型のアーム式ライトを当てると、浅く・薄い線状痕も見えやすい。筆者は実体顕微鏡を使い、ライトの角度を調節し、資料を動かしながら観察している。線状痕の拡大写真も実体顕微鏡を使ったものである⁸⁾。ただし、照明の条件さえよければ、「微妙」としている線状痕も肉眼で確認できる程度のものである。太陽光や蛍光灯の光では見えにくい。その点でも発掘中の確認はとても難しい。

使用痕の判断 製品であるかどうかの判断は、慎重を期する必要がある。貝製品は全般に判断が難しい。怪しいものは排除するか、参考資料としておくべきと考える。洗浄時のブラシ目は、傷が新しいことで排除可能であるが、時間が経つと見分けにくくなるかもしれない。実験的に使用、製作したものの保管はとくに注意する必要がある。

7. まとめ

これまでに述べたことを要約すると、次の2点に集約される。

- ①中期中葉、大形の二枚貝が道具として用いられた。アリソガイ製のA型、ハマグリ製のB型という2つの器種が存在し、それぞれ安定して使われた。
- ②A型は研磨用の貝器と推定される。
- ③B型はヘラのような用途をもった貝器と推定される。
- ④中期後葉から後期前葉にもA型が使われたが、素材はハマグリに入れ替わり、使用の頻度は少なくなったと推定される。

なお、紙面の都合もあって今回は資料紹介と、製品の概要を紹介して終わりにしたい。使用痕の特徴やその数量・割合的な提示、具体的な用途の推定、素材とした貝殻の入手方法、素材の選択基準、時期的な変化などについては別稿を用意している。

最後に、有吉北貝塚と六通貝塚の発掘と整理作業において、貝製品の回収のために力を尽くされた皆さんに敬意を表したい。発掘では上守秀明、蜂屋孝之、小宮孟、高橋博文の諸氏をはじめとした調査担当者と補助員の皆さん、整理作業では貝サンプルの分析を行っている補助員の皆さん、貝製品の観察・実測にあたった田島新氏と補助員のみなさんの地道な努力がなければ、この製品の重要性が認識されることはなかった。

また、有吉北貝塚の報告書をまとめ上げた小笠原永隆氏、使用状況の撮影に協力していただいた岡村奈生子さん、貝製品について相談にのっていただいた村田六

郎太氏、黒住耐二氏、忍澤成視氏に感謝を申し上げる。

註

- 1) 当センターが昭和59年から62年にかけて調査を行い、報告書刊行済みである。遺跡の概要は(西野2000a)に紹介した。
- 2) 当センターが平成3年から11年にかけて調査を行い、現在整理作業中である。遺跡の概要は(西野2000b)に紹介した。
- 3) ivとされたウバガイについては加工と磨耗がみられないとのことなので、除外しておく。
- 4) 土器・石器・金属器は道具、土製品・石製品・金属製品は道具以外を想定した名称であるという通例に従えば、本来は「貝器」とすべきであろう(堀越1983)。現状では「ヘラ状貝器」が最も相応しいように思うが、いたずらに名称を増やすのは混乱の元になると考えた。
- 5) 貝刃とヘラ状貝製品の特徴を併せもつものがある(SK018-aなど)。刃部の作出(剥離)と線状痕の新旧をみると、剥離→線状痕の順のもの、線状痕→剥離の順のもの両方が認められた。前者は貝刃に使用痕が付いた、とみることも可能である。線状痕はすべて腹縁と直交しているので、貝刃も磨貝と同様に貝殻を腹縁と直交する方向に動かして使うことの多い道具であった可能性が高い。
- 6) 有吉北貝塚の報告書第374図のハマグリ製品の実測図には、多くの個体に線状痕の表現がある。しかし、アリソガイ型の線状痕をもつ8以外は、使用痕とは考えにくいものである。細く、深く、短く、方向のランダムな傷は殻のサイズに関わりなく多くの個体に付いている。生息時から廃棄までにさまざまな理由で付いたものであろう。
- 7) 採集者は千葉市在住の浅野浩明君である。目にしたときの感動は今も忘れられない。実物はとりあえず筆者が譲り受け、保管してきた。
- 8) 双眼実体顕微鏡の片方の接眼レンズに、デジタルカメラのレンズを密着させ、手持ちで撮影したものである。デジタルカメラのレンズの口径等によって撮影可能な器種は限られるが、高額な撮影装置がなくても、充分撮影できることがわかった。なお、左右の接眼レンズで撮影したものを並べると、ステレオ写真になる。

文献

- 小笠原永隆 1998a 「貝製品」『千葉東南部ニュータウン19-千葉市有吉北貝塚1(旧石器・縄文時代)-』, 479p-
- 小笠原永隆 1998b 「土器以外の生活・生産用具について」同上文献, 581p-
- 金子浩昌・忍澤成視 1986 『骨角器の研究 縄文篇I』『同II』
- 出口雅人 1991 『千葉市誉田高田貝塚確認調査報告書』
- 東北歴史資料館 1985 『里浜貝塚IV-宮城県鳴瀬町宮戸島里浜貝塚西畑地点の調査研究IV-』
- 西野雅人 1999 「縄文中期の大型貝塚と生産活動-有吉北貝塚の分析結果-」『研究紀要19』千葉県文化財センター
- 西野雅人 2000a 「有吉北貝塚」『千葉県の歴史 資料編 考古1(旧石器・縄文時代)』
- 西野雅人 2000b 「六通貝塚」同上文献
- 堀越正行 1983 「貝器」『縄文文化の研究7 道具と技術』

第1表 有吉北貝塚アリソガイ製品

No	遺構No	遺物No	L/R	現存長	現存高	最大厚	最小厚	磨耗	外面	縁辺	内面	保存	備考
001	SK-095	0049	R	(102.5)	(79.5)	1.1	1.0	○	○	△	△	完形	372図-01
002	I-39	0091	L	(105.3)	(77.9)	1.3	1.0	○	○	○	○	完形	372図-02
003	I-49	0827	L	(103.6)	((76.0))	1.2	0.9	○	○	○	○	ほぼ完形	372図-03。殻頂磨耗?
004	I-58	0353	L	(111.5)	(96.5)	1.3	1.0	○	○	○	○	完形	372図-04
005	II-31	0682	L	(108.4)	(91.3)	1.4	0.8	○	○	○	○	完形	372図-05
006	II-40	0167	L	(109.2)	(85.3)	1.1	1.0	○	△	○	○	完形	372図-06
007	II-45	0701	R	(112.6)	(85.6)	1.7	0.8	○	○	○	○	完形	372図-07。殻頂磨耗?
008	II-53	0878	L	(107.3)	((78.9))	1.3	1.0	○	○	○	○	ほぼ完形	372図-08
009	III-41	0221	R	(116.0)	(93.8)	2.0	0.9	○	○	○	○	完形	372図-09。奇形。水摩
010	ニ-26	0107	L	(97.1)	(77.0)	1.2	0.8	○	○	○	○	完形	372図-10。水摩?
011	一括	-	R	((115.2))	(84.4)	1.0	0.6	○	○	○	○	ほぼ完形	372図-11
012	III-52	0711	L	(105.4)	((82.6))	1.2	0.9	○	○	△	○	欠損	372図-12
013	II-34	0797	L	(118.0)	(97.5)	2.0	1.0	○	○	○	○	完形	373図-15
014	II-40	0591	R	(120.7)	(93.4)	1.1	0.9	○	○	○	○	完形	372図-13
015	II-41	1055	R	(127.8)	(101.1)	2.4	0.9	○	○	○	○	完形	372図-14
016	III-50	0495	R	(111.9)	(91.6)	1.5	0.9	○	○	○	○	完形	373図-16
017	一括	-	L	(113.4)	(90.9)	1.2	0.9	○	○	○	○	完形	373図-17
018	II-40	0613	R	(126.6)	(106.4)	3.2	1.2	△	○	○	○	完形	373図-18
019	II-41	0549	R	(123.8)	(103.5)	3.0	1.0	△	△	○	○	完形	373図-19
020	III-52	0793	L	(118.3)	(91.9)	3.0	1.2	△	○	○	○	完形	373図-20
021	II-31	0627	R	((104.5))	((81.4))	1.1	0.9	-	○	○	○	欠損	373図-21
022	II-43	0217	L	((86.7))	((77.4))	1.0	0.8	-	○	○	○	欠損	373図-22
023	II-44	0114	L	((112.2))	((85.0))	1.0	0.8	-	○	○	○	欠損	373図-23
024	C3-42	一括	R	((106.3))	((73.7))	1.2	1.0	-	○	-	○	欠損	373図-24
025	II-40	0494	L	115.2	91.7	2.1	0.8	×	×	×	×	完形	使用痕ナシ
026	II-53	1043	R	121.3	99.5	2.5	1.2	×	×	×	×	ほぼ完形	使用痕ナシ
027	III-50	0494	R	124.8	101.2	3.1	0.8	×	△	×	×	完形	
029	III-45	0680	L	(131.6)	(110.4)	2.2	1.3	×	○	○	△	完形	
030	一括	-	R	122.7	-	2.5	1.3	×	×	×	×	破片	使用痕ナシ
031	SB-068	No1-02	L	(115.2)	(9.2)	1.1	0.9	○	○	○	○	欠損	サンプル
032	SK-095	0063	R	((109.0))	(74.1)	2.1	1.1	○	○	△	△	ほぼ完形	欠損後使用
033	II-31	0699	L	((97.2))	(81.8)	1.2	0.8	○	-	-	-	ほぼ完形	外面劣化
034	II-45	0605	L	(112.0)	(74.5)	1.5	0.9	○	△	△	△	欠損	
035	II-58	0856	-	(116.9)	-	-	-	△	○	○	○	破片	
036	SB-098	0017	-	-	-	-	-	○	○	○	○	破片	
037	SB-100	C-04	R	-	-	-	-	△	○	○	○	破片	サンプル
038	SB-173	0188	-	-	-	-	-	×	×	○	○	破片	
039	SB-173	0270	R	(98.9)	(87.1)	2.3	1.6	-	○	-	○	欠損	
040	SB-190	P-01	L	-	-	-	-	○	○	○	○	破片	サンプル
041	SB-190	P-01	L	-	-	-	-	-	×	-	×	破片	サンプル。使用痕ナシ
042	SB-190	P-01	L	-	-	-	-	-	-	-	-	破片	サンプル。使用痕ナシ
043	SB-194	-02	-	-	-	-	-	-	×	○	○	破片	サンプル
044	SB-194	0088	R	-	-	-	-	-	-	-	-	破片	使用痕ナシ
045	SB-195	A-06	-	-	-	-	-	×	-	-	-	破片	サンプル、使用痕ナシ
046	SB-195	B-03	R	-	-	-	-	×	×	-	×	破片	サンプル、使用痕ナシ

№	遺構№	遺物№	L/R	現存長	現存高	最大厚	最小厚	磨耗	外面	縁辺	内面	保存	備考
047	SB-195	B-04	L	-	-	-	-	△	○	-	○	破片	サンプル
048	SB-195	B-05	R	-	-	-	-	△	○	○	○	破片	サンプル
049	SB-195	B-06	R	-	-	-	-	-	-	-	×	破片	サンプル。使用痕ナシ
050	SB-208	№1-C-02	-	-	-	-	-	×	×	×	×	破片	サンプル。使用痕ナシ
051	SB-208	№1-S-05	-	-	-	-	-	-	-	-	×	破片	サンプル。使用痕ナシ
052	SB-208	№1-S-06	L	-	-	-	-	-	×	-	×	破片	サンプル。使用痕ナシ
053	SK-070	0001	R	-	-	-	-	○	△	△	△	破片	
054	SK-104	-01	-	-	-	-	-	○	-	△	-	破片	サンプル
055	SK-109	-04	-	-	-	-	-	-	×	-	×	破片	サンプル。使用痕ナシ
056	SK-109	-05	-	-	-	-	-	○	△	△	△	破片	サンプル。欠損後使用?
057	SK-109	-05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破片	サンプル。使用痕ナシ
058	SK-109	-06	L	-	-	-	-	-	×	-	×	破片	サンプル。使用痕ナシ
059	SK-164	C-03	-	-	-	-	-	-	△	-	△	破片	サンプル
060	SK-164	C-03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破片	サンプル。使用痕ナシ
061	SK-164	C-03	-	-	-	-	-	-	△	-	-	破片	サンプル
062	SK-179	-02	-	-	-	-	-	△	×	○	○	破片	サンプル
063	SK-714	-04	L	(98.9)	((72.5))	1.2	0.9	-	×	-	△	欠損	サンプル
064	SK-714	-04	R	-	-	-	-	-	×	-	×	破片	サンプル。使用痕ナシ
065	SK-714	S-02	-	-	-	-	-	-	×	-	×	破片	サンプル。使用痕ナシ
066	SK-765	-02	-	-	-	-	-	○	○	○	○	破片	サンプル
067	SK-765	S-13	R	-	-	-	-	○	○	△	○	破片	サンプル
068	I-59	-10	L	-	-	-	-	○	○	○	○	破片	サンプル
069	I-59	St1-05	R	-	-	-	-	-	×	-	×	破片	サンプル。使用痕ナシ
070	I-59	St2-08	-	-	-	-	-	-	×	-	×	破片	サンプル。使用痕ナシ
071	I-59	St2-10	L	-	-	-	-	-	×	-	×	破片	サンプル。使用痕ナシ
072	II-20	0438	L	(102.1)	(79.2)	1.7	1.1	-	-	-	○	欠損	
073	II-24	0995-996	-	-	-	-	-	○	○	○	○	破片	
074	II-24	1005	-	-	-	-	-	△	○	○	○	破片	
075	II-31	0725	L	((91.9))	((54.7))	1.4	1.1	△	○	-	○	欠損	奇形
076	II-34	0064	L	(113.9)	(81.8)	1.7	1.2	△	-	-	-	欠損	水摩
077	II-34	1256	L	((112.1))	(76.7)	1.5	1.1	○	○	△	○	欠損	奇形
078	II-39	0891	L	(92.0)	(72.2)	1.4	1.1	-	-	-	-	欠損	使用痕ナシ
079	II-40	0213	R	(95.4)	(74.6)	1.7	1.3	-	△	-	△	欠損	水摩
080	II-40	0559	L	-	-	-	-	-	-	-	○	破片	
081	II-41	1333	R	(88.1)	((64.4))	1.2	0.9	-	○	-	△	欠損	
082	II-41	1637	R	-	-	-	-	-	△	-	○	破片	
083	II-42	1603	L	(114.2)	((90.5))	2.2	1.3	-	×	-	-	欠損	使用痕ナシ
084	II-42	A-16	L	-	-	-	-	○	-	△	-	破片	サンプル
085	II-42	A-17	R	-	-	-	-	△	-	-	-	破片	サンプル
086	II-42	A-26	R	-	-	-	-	○	-	-	-	破片	サンプル
087	II-42	A-56	L	-	-	-	-	-	-	-	-	破片	サンプル。使用痕ナシ
088	II-50	0037	L	(98.6)	((75.5))	2.4	1.1	△	○	-	△	欠損	破損誤使用
089	II-52	-08	L	-	-	-	-	-	-	-	-	破片	サンプル。使用痕ナシ
090	II-52	-10	R	-	-	-	-	△	△	△	○	破片	サンプル
091	II-52	-22	L	-	-	-	-	-	×	-	×	破片	サンプル。使用痕ナシ
092	II-52	-35	R	-	-	-	-	○	○	○	△	破片	サンプル

No	遺構No	遺物No	L/R	現存長	現存高	最大厚	最小厚	磨耗	外面	縁辺	内面	保存	備考
093	II-52	-45	-	-	-	-	-	-	×	△	△	破片	サンプル
094	II-53	1077	R	-	-	-	-	×	×	×	×	破片	使用痕ナシ
095	II-54	0345	L	-	-	-	-	-	△	-	×	破片	
096	I-55	0474	R	(98.0)	((75.5))	2.4	1.4	△	△	△	△	欠損	
097	I-56	0676	R	((108.2))	((72.7))	1.5	0.9	-	-	-	-	欠損	劣化顕著。使用痕ナシ
098	I-58	-16	-	-	-	-	-	-	×	-	×	破片	サンプル。使用痕ナシ
099	II-58	-16	-	-	-	-	-	△	-	△	○	破片	サンプル
100	II-58	-30	L	-	-	-	-	-	×	-	×	破片	サンプル。使用痕ナシ
101	II-58	-23	R	-	-	-	-	△	△	△	-	破片	サンプル
102	II-58	-30	L	-	-	-	-	△	○	○	-	破片	サンプル
103	II-60	0378	R	-	-	-	-	△	○	△	△	破片	
104	III-20	1441	L	((90.7))	((62.7))	1.1	0.8	○	○	-	○	欠損	
105	III-23	0149	L	((96.0))	((70.2))	1.2	0.7	△	△	-	-	欠損	
106	ニ-15	-06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破片	サンプル。使用痕ナシ
107	ニ-15	-07	L	-	-	-	-	-	×	-	×	破片	サンプル。使用痕ナシ
108	ニ-15	-07	L	-	-	-	-	-	-	-	-	破片	サンプル。使用痕ナシ
109	ワ-65	0169	L	((93.6))	((82.4))	1.4	1.0	-	○	○	○	欠損	
110	C3-42	一括	L	((105.7))	((70.7))	1.9	1.8	○	○	△	○	欠損	サンプル(旧SK-71)。欠損後使用
111	C3-42	一括	R	-	-	-	-	△	○	△	○	破片	サンプル(旧SK-71)
112	C3-42	一括	R	-	-	-	-	-	×	-	-	破片	サンプル(旧SK-71)。使用痕ナシ
113	C3-42	一括	-	-	-	-	-	-	×	-	×	破片	サンプル(旧SK-71)。使用痕ナシ
114	C3-42	一括	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破片	サンプル(旧SK-71)。使用痕ナシ
115	C3-42	一括	-	-	-	-	-	△	○	○	○	破片	サンプル(旧SK-71)
116	C3-42	一括	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破片	サンプル(旧SK-71)。使用痕ナシ
117	C3-42	一括	-	-	-	-	-	○	○	△	○	破片	サンプル(旧SK-71)
118	C3-42	一括	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破片	サンプル(旧SK-71)。使用痕ナシ
119	C3-42	一括	-	-	-	-	-	-	-	-	-	破片	サンプル(旧SK-71)。使用痕ナシ
120	C3-42	一括	-	-	-	-	-	-	△	-	○	破片	サンプル(旧SK-71)
121	C3-42	一括	-	-	-	-	-	-	△	×	△	破片	サンプル(旧SK-71)
122	E2-35	d ¹ -03	L	-	-	-	-	-	×	-	×	破片	サンプル、使用痕ナシ
123	E2-43	0008	L	-	-	-	-	-	-	-	-	破片	サンプル。使用痕ナシ
124	一括	-	L	(95.0)	(65.5)	1.5	1.0	△	-	△	-	欠損	劣化顕著
125	一括	-	R	-	-	-	-	-	-	-	-	破片	劣化顕著。使用痕ナシ

凡例

- ・遺物No -付の数字は貝サンプルのカットNo
- ・現存長 () : 磨耗した資料の現存値
- ・現存高 (()) : 破損資料の現存値
- : 破損が大きく計測不可能なもの
- ・磨耗 ○ : 腹縁の減り方が大きい
- △ : 腹縁の減り方が小さい
- ×
- × : 腹縁の磨耗が認められない
- : 観察不能
- ・外面・縁頂 ○ : 線状痕の範囲・方向を確認できる
- △ : 線状痕は認められるが劣化等により範囲・方向は不明
- ×
- ×
- × : 線状痕が認められない
- : 劣化・破損等により観察不能

028は欠番(赤彩貝として報告=報告書第376図25)

備考欄に使用痕ナシとしたもの(42点)は製品ではなく、参考資料。製品は83点となった
図のNoは報告書の挿図番号

第2表 有吉北貝塚ハマグリ製品

No	遺構No	遺物No	L/R	現存長	現存高	分類	腹縁			外面	備	考
							磨耗	線状痕	範囲			
001	SB-173	I-02	L	89	69	B+C	○	○	a-a'	○	374図-04	
002	SB-185	S-15	R	78	62	B	○	○	a-a'	×		
003	SB-195	B-03	L	81	64	B	○	○	a-a'	×	374図-09	
004	SK-714	0038	L	70	55	B+C	○	○	a-a'	○	写真○, C型線状痕	
005	SK-765	0015	L	80	58	B	○	○	a-a'	×		
006	SK-775	0101	L	85	69	B	△	○	a-a'	×	一部欠	
007	SK-775	0102	R	87	66	B	×	○	d-a'	×		
008	I-48	0327	L	(108)	81	B	△	○	d-a'	×	一部欠	
009	I-48	0327	L	98	75	B	○	○	b-a'	×	374図-03	
010	I-58	0292	R	103	75	B	○	○	a-a'	×		
011	I-59	0316	L	82	63	B	×	○	b-a'	×		
012	I-59	0608	L	93	75	B	○	○	a-a'	×	374図-06	
013	I-59	0608	R	90	71	B	○	○	a-a'	×		
014	I-59	0611	R	91	71	B	×	○	a-b'	×		
015	I-59	0641	L	90	67	B+C	×	○	a-a'	○		
016	I-59	0661	L	91	72	B	×	○	c-a'	×		
017	II-20	0506	L	82	66	B	○	○	b-a'	×		
018	II-20	0645	L	86	65	B	△	○	d-a'	×		
019	II-20	0645	L	90	70	B	×	○	c-a'	×		
020	II-20	0645	L	110	81	B	△	○	b-a'	×		
021	II-25	0108	L	77	59	B	△	○	d-a'	×		
022	II-25	0111	L	82	60	B	×	○	a-a'	×		
023	II-25	0111	R	82	64	B(+A?)	×	○	a-a'	△		
024	II-29	0441	R	95	76	B	×	○	a-a'	×		
025	II-27	0238	L	81	63	B	×	○	b-a'	×	一部欠	
026	II-27	0238	L	86	64	B	×	○	d-a'	×		
027	II-31	0400	L	(88)	76	A	○	×	a-a'	○	374図-08。内外面後端線状痕。水摩	
028	II-31	0667	R	(82)	65	B	△	○	a-d'	×	一部欠	
029	II-31	0111	L	82	65	B	×	○	a-a'	×		
030	II-33	0318	L	91	70	B	△	○	d-a'	×		
031	II-35	0318	L	93	73	B	△	○	c-a'	×		
032	II-35	0318	R	101	78	B	△	○	a-a'	×		
033	II-35	0318	R	104	80	B	△	○	a-a'	×		
034	II-35	0719	R	87	68	B	×	○	b-a'	×		
035	II-35	0719	L	80	62	B(+A?)	×	○	c-a'	△	チョウセンハマグリ	
036	II-35	0719	R	99	77	B+C	×	○	a-a'	○		
037	II-36	0106	L	95	71	B	×	○	c-a'	×		
038	II-37	0366	L	79	60	B	×	○	b-a'	×		
039	II-38	0803	L	86	66	B+C	×	○	d-a'	○		
040	II-39	0224	L	91	70	B	×	○	d-a'	×	水摩	
041	II-39	0891	R	83	64	B	×	○	b-d'	×		
042	II-40	0466	L	83	66	B	×	○	d'-a'	×		
043	II-40	0474	L	(94)	73	B	×	○	c-a'	×	一部欠	
044	II-40	0613	R	81	62	B(+A?)	×	○	a-a'	△		
045	II-40	0637	L	85	67	B	×	○	d-a'	×	外面剥落	
046	II-41	0649	R	97	76	A	○	×	c-a'	○	内面も線状痕。内外面光端部線状痕。水摩	
047	II-41	1108	L	84	67	B+C	×	○	b-a'	○		
048	II-41	1333	L	84	65	B	×	○	d-a'	×		
049	II-41	1359	L	(98)	81	A	○	×	d-a'	○	374図-11, 外面後端線状痕, 内面後端線状痕?。水摩?	
050	II-41	1553	R	92	72	B+C	○	○	a-a'	○	374図-07	
051	II-42	1488	R	92	73	B(+C?)	○	○	a-a'	△		
052	II-42	1698	L	100	78	B	×	○	b-a'	×		
053	II-43	1702	L	84	66	B	×	○	b-a'	×	外面剥落	
054	II-43	0113	L	100	80	B(+C?)	△	○	b-a'	△		
055	II-43	0241	L	79	59	B	×	○	b-a'	×	チョウセンハマグリ	
056	II-45	0263	R	98	73	B	×	○	a-a'	×		
057	II-45	0281	L	94	77	B+C	○	○	a-a'	○	374図-02	
058	II-45	0388	L	96	74	B	×	○	d-a'	×		

No	遺構No	遺物No	L/R	現存長	現存高	分類	腹縁			外面	備	考
							磨耗	線状痕	範囲			
059	II-45	0548	L	102	77	B	×	○	a-a'	×	穿孔?	
060	II-45	0939	L	112	86	B	○	○	d-a'	×	374図-10	
061	II-46	0017	R	(94)	74	B	×	○	a-a'	×	一部欠。水摩	
062	II-46	0418	R	96	78	B	△	○	a-a'	×		
063	II-46	0418	L	79	61	B	△	○	d-a'	×		
064	II-48	1895	L	94	72	B	○	○	a-a'	×	374図-05	
065	II-48	1895	L	90	73	B	○	○	b-a'	×		
066	II-48	1895	R	93	71	B	△	○	a-d'	×		
067	II-48	1895	R	83	64	B	×	○	a-a'	×		
068	II-48	1895	R	93	73	B	×	○	a-d'	×	外面剥落	
069	II-48	1895	R	86	67	B	×	○	a-a'	×		
070	II-49	0602	L	87	68	B	△	○	a-a'	×	一部欠	
071	II-50	0564	L	90	68	B	×	○	c-a'	×	一部欠	
072	II-50	0564	L	108	80	B	×	○	b-a'	×		
073	II-50	0564	L	84	66	B	×	○	c-a'	×		
074	II-50	0661	R	91	72	B	×	○	d-b'	×		
075	II-51	0861	R	105	80	B	△	○	a-a'	×		
076	II-51	1545	L	93	68	B	△	○	d-a'	×		
077	II-52	1534	R	(82)	67	B	△	○	a-d'	×	一部欠	
078	II-53	1019	L	97	75	B	×	○	b-a'	×		
079	II-53	1077	L	95	74	B	×	○	b-a'	×		
080	II-53	1077	L	88	70	B	○	○	c-a'	×	374図-01	
081	II-54	1290	R	87	68	B	×	○	a-b'	×		
082	II-54	0345	L	83	64	B	×	○	c-a'	×		
083	II-54	0450	R	81	64	B+C	×	○	a-a'	○	内面後端付近弱い線状痕	
084	II-54	0798	L	83	65	B	×	○	b-a'	×		
085	II-55	0251	L	85	65	B	×	○	d'-a'	×		
086	II-55	0251	L	93	73	B	×	○	d-a'	×		
087	II-55	0251	L	91	70	B	×	○	a-a'	×		
088	II-55	0251	F	86	67	B	×	○	a-d'	×	水摩	
089	II-55	0474	L	94	76	B	×	○	c-a'	×		
090	II-55	0506	L	91	70	B	×	○	a-a'	×		
091	II-55	0506	R	100	76	B	×	○	d-a'	×		
092	II-55	0938	L	85	68	B	△	○	c-b'	×		
093	II-55	0938	R	99	73	B	△	○	a-a'	×	水摩?一部欠	
094	II-56	0676	R	86	67	B	△	○	a-a'	×		
095	II-56	0676	R	85	65	B	×	○	a-a'	×	水摩	
096	II-56	0676	L	80	60	B+C	×	○	a-a'	○	チョウセンハマグリ	
097	II-56	0676	L	85	66	B	×	○	d-a'	×		
098	II-56	0676	R	80	64	B	×	○	a-a'	×		
099	II-57	0865	L	85	66	B(+C?)	×	○	c-a'	△		
100	II-57	0865	L	82	63	B	×	○	d-a'	×		
101	II-57	0865	L	88	68	B+C	△	○	a-a'	○	外面磨耗	
102	II-57	0865	L	85	68	B(+C?)	×	○	d-a'	△		
103	II-57	0865	L	85	66	B	×	△	a-a'	×		
104	II-57	0865	R	106	81	B	×	○	a-d'	×	水摩?	
105	II-57	0865	R	98	74	B	○	○	a-a'	×		
106	II-57	0865	L	86	67	B	△	○	b-a'	×		
107	II-57	0865	R	91	69	B	×	○	a-a'	×	一部欠	
108	II-57	0865	R	103	77	B+C	×	○	a-a'	○	一部欠	
109	II-57	0927	L	83	64	B	×	○	c-a'	×		
110	II-58	0557	L	92	73	B	×	○	d-a'	×		
111	II-58	B?	R	94	73	B	×	○	a-d'	×		
112	II-58	B?	L	89	72	B	×	○	c-a'	×		
113	II-60	0317	L	85	57	B	×	○	a-a'	×		
114	III-20	0991	L	90	70	B	△	○	a-a'	×		
115	III-20	0991	L	96	76	B	△	○	d-a'	×		
116	III-20	0991	R	92	72	B	×	○	a-a'	×		
117	III-23	0136	L	80	62	B	×	○	c-a'	×		
118	III-31	0919	L	94	71	B	×	○	a-a'	×		

No	遺構No	遺物No	L/R	現存長	現存高	分類	腹縁			外面	備	考
							磨耗	線状痕	範囲			
120	Ⅲ-31	1383	R	75	61	B	×	○	b-c'	×		
121	Ⅲ-31	1383	R	93	72	B	△	○	a-a'	×		
122	Ⅲ-32	0613	L	103	76	B	△	○	d-a'	×		
123	Ⅲ-32	0630	L	91	72	B	×	○	a-d'	×		
124	Ⅲ-32	2575	R	88	67	B	○	○	b-a'	×		
125	Ⅲ-32	2623	L	88	66	B	△	○	a-a'	×		
126	Ⅲ-32	2623	R	96	76	B	×	○	a-d'	×		
127	Ⅲ-32	2623	R	104	81	B	×	○	a-d'	×		
128	Ⅲ-32	2624	R	84	66	B	×	○	a-a'	×		
129	Ⅲ-52	-	L	(98)	76	B+C	△	○	a-a'	○	一部欠	
130	表採	-	R	71	57	A	×	×	-	○	内面後端線状痕。中央穿孔？水摩，光沢のこる	
131	表採	-	L	97	75	B	△	○	d-a'	×		
132	表採	-	R	92	69	B(+C?)	○	○	a-a'	△		
133	表採	-	L	79	61	B	△	○	b-a'	×		
134	表採	-	L	92	73	B	○	○	a-a'	×		
135	表採	-	L	94	75	B	△	○	c-b'	×		
136	表採	-	R	91	70	B	×	○	a-a'	×		
137	表採	-	L	86	66	B	×	○	a-d'	×	外面剥落	
138	表採	-	L	91	73	B	×	○	d-a'	×	水摩。外面剥落	
139	表採	-	L	77	61	B	×	○	a-c'	×		
140	表採	-	L	94	73	B	×	○	b-a'	×		
141	表採	-	L	82	62	B	×	○	a-a'	×		
142	表採	-	L	83	64	B	×	○	b-a'	×		
143	表採	-	L	(106)	80	B	×	○	b-d'	×	一部欠。水摩顕著	
144	表採	-	L	84	66	B	×	○	b-a'	×		
145	表採	-	L	95	74	B	×	○	b-a'	×		
146	表採	-	L	77	59	B+C	×	○	b-a'	○	チョウセンハマグリ	
147	表採	-	L	88	68	B	×	○	b-a'	×		
148	表採	-	L	83	64	B	×	○	d-a'	×		
149	表採	-	L	89	72	B	×	○	a-a'	×		
150	表採	-	R	74	59	B	×	○	a-a'	×		
151	表採	-	L	95	73	B	×	○	c-a'	×		
152	表採	-	L	83	66	B	△	○	a-a'	×		
153	表採	-	L	79	61	B	×	○	b-a'	×		
154	表採	-	L	83	65	B	×	○	c-a'	×		
155	表採	-	L	97	75	B	×	○	d-d'	×		
156	表採	-	R	99	73	B	×	○	d-a'	×		
157	表採	-	L	102	77	B	×	○	d'-a'	×		
158	表採	-	R	99	76	B	×	○	d-c'	-	外面劣化	
159	表採	-	L	96	73	B	×	○	d-d'	×		
160	表採	-	L	92	71	B	×	○	d-a'	-	外面劣化	
161	SB-100B	0130	L	82	66	B	×	○	b-a'	×		
162	ニ-25	0031	L	81	60	B	×	○	a-a'	-	外面劣化	

凡例

- ・遺物No - 付の数字は貝サンプルのカットNo
- ・現存長・現存高 () : 破損資料の現存値
- ・腹縁磨耗 ○ : 磨耗している (A型・B型を問わない)
× : 磨耗が認められない
- ・腹縁線状痕 ○ : 腹縁の端部に線状痕が認められる
× : 腹縁の端部に線状痕が認められない
- ・腹縁範囲 腹縁の磨耗または線状痕の認められる範囲
(記号は報告書第369図による)
- ・外面 ○ : A型またはC型の線状痕が認められる
△ : 微妙な線状痕が認められる
× : 線状痕は認められない
- : 劣化・破損等により観察不能

集計結果

A型	4点	2%
B型	135点	84%
B(+A?)型	3点	2%
B(+C?)型	5点	3%
B+C型	14点	9%
合計	161点	100%
ハマグリ	157点	
チョウセンハマグリ	4点	

(119は欠番)

第3表 有吉北貝塚その他の貝種製品

フジナミガイ製

No	遺構	遺構No	遺物No	L/R	現存長	現存高	磨耗	外面	縁辺	内面	保存	備考
001	住居跡	SB-195	1248	L	104.2	66.4	○	○	×	○	完形	
002	北斜面	II-37	0293	L	92.6	(56.5)	○	○	△	○	縁辺欠	
003	北斜面	II-45	0988	R	100.4	64.4	○	○	×	○	完形	縁辺劣化
004	北斜面	II-54	0892	L	(90.0)	63.7	○	○	○	○	一部欠	
005	北斜面	II-59	0344	R	94.5	61.5	○	○	○	○	完形	孔状に欠損
006	北斜面	III-10	1026	R	101.3	(62.2)	-	×	-	○	縁辺欠	
007	北斜面	III-53	0681	L	105.1	69.0	○	○	△	○	完形	
008	小竪穴	SK-071	0212	R	94.3	(59.8)	-	-	-	○	縁辺欠	
009	一括	-	-A	L	97.6	(61.6)	○	○	△	○	一部欠	
010	一括	-	-B	R	100.0	62.1	○	○	△	○	完形	
011	一括	-	-C	R	95.8	65.2	○	○	○	○	完形	
012	一括	-	-D	R	98.5	62.6	○	○	○	○	完形	
013	北斜面	I-52	-	R	-	-	○	○	△	○	破片	

ミルクイガイ製

No	遺構	遺構No	遺物No	L/R	現存長	現存高	磨耗	外面	縁辺	内面	保存	備考
014	北斜面	I-59	0507		136.5	104.5	○	○	○	○	完形	穿孔or穴状欠損2

オオトリガイ製

No	遺構	遺構No	遺物No	L/R	現存長	現存高	磨耗	外面	縁辺	内面	保存	備考
015	北斜面	III-32	2441		134.2	71.0	○	×	△	○	一部欠	

凡例：磨耗、外面～内面はハマグリ製品に順ずる

第4表 誉田高田貝塚ハマグリ製品

No	遺構	遺構No	遺物No	L/R	現存長	現存高	腹縁磨耗	外面	縁辺	内面	保存	備考
1	表採	-	-	右	81.4	68.0	後側1/2	○	○	○	完形	

凡例：磨耗、外面～内面はハマグリ製品に順ずる

第5表 六通貝塚ハマグリ製品

A型

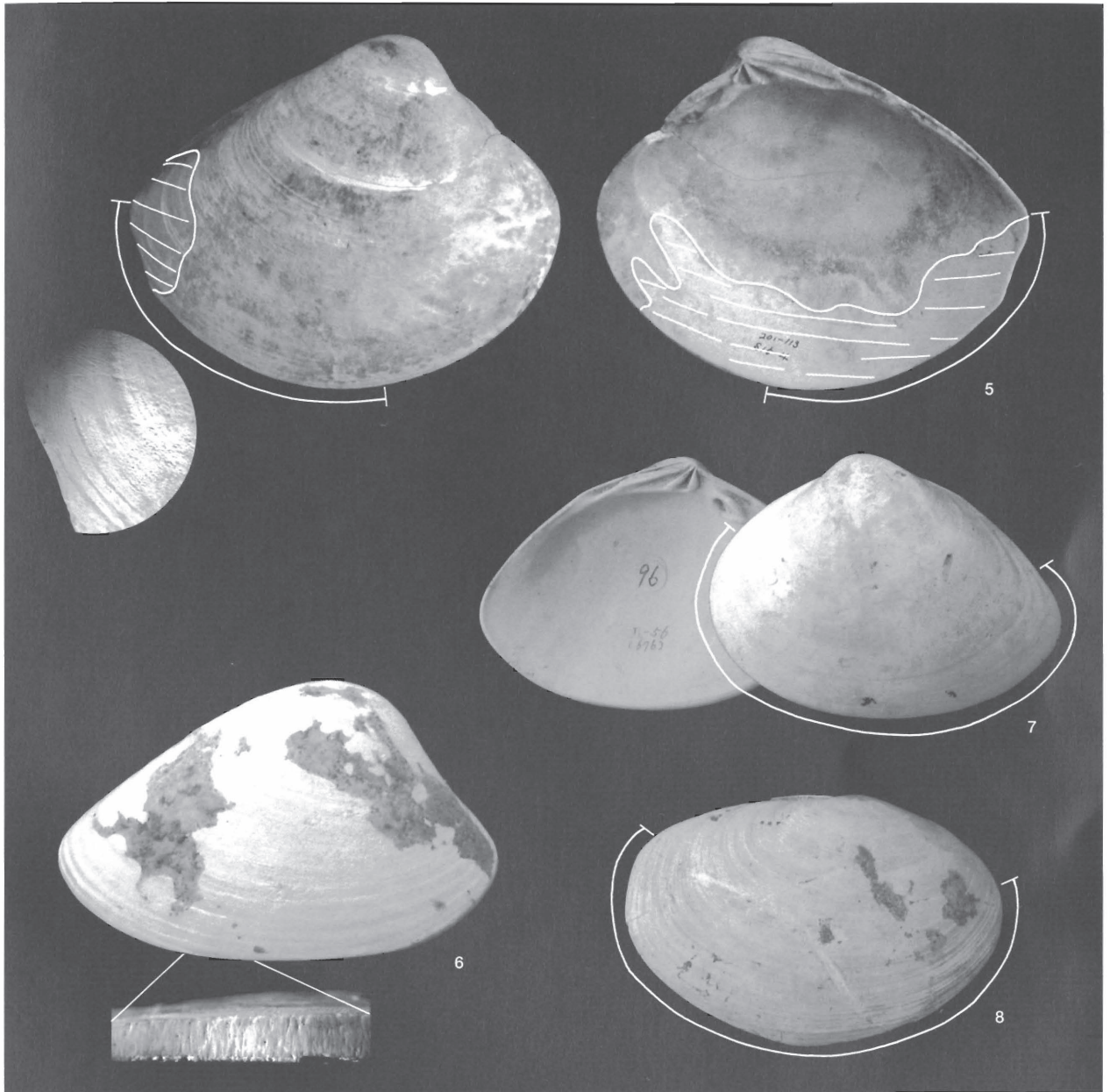
No	遺構No	個体	遺物No	R/L	殻長	殻高	腹縁変形	遺構種類	出土位置：時期	観察
1	K09-56	a	0005	R	96	81	後側2/3	主貝層北端部	K09-56純貝層, 称名寺	腹縁端摩滅と線状痕, 内外面に線状痕。内面殻長部付近に赤漆に似た付着物
2	K09-56	b	0006	L	97	77	後側1/2	主貝層北端部	K09-56純貝層, 称名寺	腹縁端摩滅と線状痕, 内外面に線状痕。一部水摩
3	K09-56	c	0039	L	89	69	後側1/2	主貝層北端部	K09-56純貝層, 称名寺	腹縁端摩滅と線状痕, 内外面に線状痕
4	SI006	b	0051	L	100	80	後側1/2	縄文住居	貝層中：EIV・称名寺	腹縁摩滅, 内面線状痕。全面水摩
5	SK018		cut4	R	90	75	後側2/3	縄文小竪穴	貝サンプル中、混土貝層B：EIV・称名寺	腹縁摩滅, 劣化した内外面平滑化と線状痕。全面水摩
6	SK022		0009	L	(90)	74	前側1/4	縄文土坑	覆土内一括：中期後葉	劣化した内面平滑化と線状痕。全面水摩

B型

No	遺構No	個体	遺物No	R/L	殻長	殻高	腹縁変形	遺構種類	出土位置：時期	観察
7	N10-73		0067	R	83	66	中央1/3	主貝層東端部	貝層中, 称名寺	腹縁に摩滅と線状痕



1. A型のアリソガイ (有吉北, 第1表2) 左: 外面と線状痕拡大, 右: 内面
2. B+C型のハマグリ (有吉北, 第2表4) 外面とC型線状痕拡大 (右), 腹縁のB型線状痕拡大 (下)
3. A型のハマグリ (有吉北, 第2表27)
4. A型のハマグリ (誉田高田, 第4表1) 左: 外面と線状痕, 右: 内面



5. A型のハマグリ (六通, 第5表5) 左: 外面と線状痕拡大, 右: 内面
 6. B型のハマグリ (六通, 第5表7) 外面と腹縁の磨耗 (やや斜めに撮影), 線状痕拡大 (下)
 7. B+C型のチョウセンハマグリ (有吉北, 第2表96)
 8. A型のフジナミガイ (有吉北, 第3表11)

